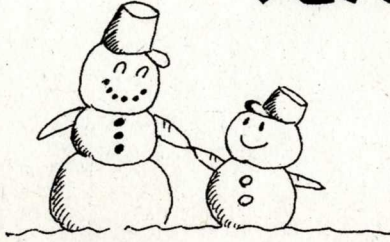


# えんどうまめ通信



2015年12月

練馬区立中村小学校 心のふれあい相談員 遠藤 絵里

## 「いじめない人」

私が小学校4年生の時のことです。クラスメートが具合悪くなって休んでいました。数人でお見舞いに行った私たちは、その子がとても家族に甘えている様子を見て、うらやましくなりました。その子が元気になって登校するようになると、一人の強い子が「あの子、甘えてばかりいたから無視しよう」と言い、私を含む周りの皆は「え?」と思いながらも何となくその子に話しかけるのをやめてしまいました。へたなことを言って自分もいじわるされるのがいやだったからです。その後全員、すぐにひどく先生に叱られ、その子ともまた普通の関係に戻りました。その間数日だったにも関わらず、私の中では「ひどいことをしてしまった」という強烈な印象が傷になってずっと残っています。

私たち親は、しばしば我が子がいじめられたらどうしよう、と不安になります。いじめられても折れない心を作ることは大切ですが、やり返すことを教えるのは違うような気がするし(それをやるといじめの連鎖はなくなりませんかよね)、どうしたらよいのでしょうか?

もしかすると、いじめられることを心配する前に、1人1人が「いじめない人」になることが大切なのかもしれません。見ているだけの人にならないで声をあげていく、全体がそんな雰囲気になれば、自分もいじめられることを心配しなくてすみますよね。

私は、冒頭の経験があるので、自分は絶対に人にいじわるしないと言い切れる自信がありません。傍観者となって見て見ぬふりをするかもしれない弱い心を認めざるを得ません。でもお互いにそんな心があることを話したら少しは違ったかもしれないと思うのです。

もし子どもたちが、(どんなに優しい子でも)自分の中にあるネガティブな心(いじわるしたくなる気持ち、うらやましく、あるいは妬ましく思う気持ち、くやしくて人に当たりたくなる気持ちなど)に気づけるようになり、どんな時にそんな気持ちになるのかオープンに、また正直に話し合えたら、本物の「いじめない人」に近づけるのではないのでしょうか。

その力は、ありのままの自分を否定されないご家庭でこそ培われるもの、と思います。年末年始、子どもたちが安心していろいろなことを話し、肩の荷をおろして、いっぱい笑って過ごせますようにと願っています。風邪などに気をつけてよいお年をお迎えくださいね。

相談室直通電話 080-2010-1957 月・水・木(面談は原則9時~2時ですが、ご都合のつかない場合は予約の際にご相談ください) 金曜日は臨床心理士の中里先生が相談室にいらっしゃいます。